

(1日本史Bプリント 1-6) ()組()番 氏名_____

第1章 日本文化のあけぼの 2 農耕社会の成立 c.小国の分立(2)

中国の文献にみる古代の日本

①日本に関する最古の記述=[1 **漢書地理志**] 紀元前ごろの様子を示す
→倭国の[2**小国分立**]の状況と、漢へ[3**朝貢**]していたことを記す

夫れ[4**楽浪**]海中に[5**倭人**]有り、[6**分れて百余国**]と為る。歳時を以て来り献見すと云ふ。

楽浪…

②[7 **後漢書東夷伝**]の記述 1世紀から2世紀の頃の様子を示す

建武中元二年、倭の[8**奴国**]、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武、賜ふに[9**印綬**]を以てす。安帝の永初元年、倭の国王帥(師)升等、[10**生口**]百六十人を献じ、請見を願ふ。桓靈の間、倭国[11**大いに乱れ**]、更相攻伐して歴年主なし。

奴国…現在の[12 **福岡市**]付近にあった「クニ」

印綬…印とひも=博多湾[13**志賀**]島で発見された「[14**漢委奴国王**]」という金印と思われる
「漢委奴国王」… と読むと思われる

「桓靈の間、倭国[15**大いに乱れ**]、更相攻伐して歴年主なし」
…[16**2**]世紀頃、はげしい[17**内乱**] (倭国大乱) が発生したことを示す。

倭国大乱の証明…瀬戸内海沿岸や畿内の[18 **山頂**]や丘陵に軍事色の強い[19**高地**]性集落や[20 **矢が刺さった**]人骨、[21 **首のない**]人骨も発見される。

d.邪馬台国連合

①「三国志」の[22 **魏志倭人伝**] (陳寿編)の記述
→2世紀後半、女王[23**卑弥呼**]の支配する小国連合である[24**邪馬台**]国の存在を記す

倭人は[25 **帯方**]の東南大海の中に在り、[26 **山島**]に依りて国邑を為す。旧百余国、漢の時朝見する者あり。今使詔通ずる所三十国。郡より倭に至るには、海岸に循ひて水行し、……邪馬壹国に至る。女王の都する所なり。

②「卑弥呼」…、[27 **倭国大乱**] (?)の中、王となる

其の国、本亦男子を以て王と為す。住まること七、八十年、倭国乱れ、相攻伐して年を歴たり。乃ち共に一女子を立てて王と為す。名を[28**卑弥呼**]と曰ふ。[29 **鬼道**]を事とし、能く衆を惑はす。年已に長大なるも、夫婿無し。男弟有り、佐けて国を治む。…景初二年(239年)六月、倭の女王、大夫難升米等を遣し郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む。その年十二月、詔書して倭の女王に報じて曰く「…今汝を以て[30 **親魏倭王**]と為し、金印紫綬を仮し、装封して帯方の太守に付し仮授せしむ。…」と。

卑弥呼…「鬼道を事とし、能く衆を惑わす」=[31 **呪術**]的權威による支配

→「男弟」の役割は？

中国(魏)との結び付きを重視→239年魏に使者を送り、「[32 **親魏倭王**]」の金印を与えられる

男子は大小と無く、皆黥面文身す。…[33 **租賦**]を収むに邸閣有り。国々に市有り。有無を交易し、大倭をして之を監せしむ。女王国より以北には、特に[34**一大率**]を置き、諸国を檢察せしむ。諸国之を畏憚す。…[35 **下戸**]、[36 **大人**]と道路に相逢へば、逡巡して草に入り、辞を伝へ事を説くには、或は蹲り或は跪き、両手は地に拠り之が恭敬を為す。

[37 **身分**]差の存在 ([38 **大人**]→[39 **下戸**]→奴婢)

連合国家=[40**統治組織**]・租税・刑罰の制度の整備

「[41**一大率**]」を置き、諸国を檢察せしむ」

卑弥呼以て死す。大いに冢を作る。径百余歩、[42 **徇葬**]する者、奴婢百余人。更に男王を立てしも、國中服せず、更々相誅殺し、当時千余人を殺す。復た卑弥呼の宗女[43 **壹与**]の年十三なるを立てて王と為す。國中遂に定まる。

③邪馬台国→[44**狗奴**]国と戦う→卑弥呼の死後、混乱→宗女[45 **壹与**]の即位により安定

1世紀につくられた[46 **漢書地理志**]によると、「倭人」の社会は[47 **百余国**]に分かれ、前漢が[48 **朝鮮半島**]においた楽浪郡に定期的に使者をおくっていたという。

また[49 **後漢書東夷伝**]には、紀元57年、[50 **奴**]国の使者が後漢におもむいて光武帝から[51 **印綬**]を受け、107年には倭国王帥升等が[52 **生口**]160人を献じたことが示されている。福岡市の志賀島から発見された[53 **漢委奴国王**]の金印がこの印綬ではないかと考えられる。

さらに[54 **魏志倭人伝**]によると、倭国では2世紀の終りころ[55 **大きな争乱**]が発生するなか、共同して[56 **邪馬台国**]の女王[57 **卑弥呼**]を立てたところ、ようやく争乱はおさまった。女王は239年三国の一つ[58 **魏**]に使いをおくり、[59 **親魏倭王**]の称号と多数の[60 **銅鏡**]などを贈られた。女王は[61 **呪術**]的權威を背景に政治をおこなった。

邪馬台国では大人と下戸などの[62 **身分**]があり、ある程度の統治組織や租税・刑罰の制度も整い、また市もひらかれていたという。卑弥呼の死後、男の王が立ったが国内がおさまらず、卑弥呼と同族の女性[63 **壹与**]が王となってようやくおさまったという。

邪馬台国の所在地については、近畿地方の[64 **大和**]に求める説と、[65 **九州北部**]に求める説とがある。近畿説をとれば、3世紀前半には九州北部におよぶ[66 **広域の政治連合**]が成立しそのちの[67 **ヤマト**]政権につながることになり、九州説をとれば、邪馬台国連合は九州北部を中心とする[68 **小規模**]のものとなる。

邪馬台国論争…邪馬台国の位置と、その性格をめぐる論争

1) [69 **北九州**]説→日本を統一した国家ではない 距離の間違い、方向は正確

2) [70 **大和(畿内)**]説→のちの大和政権との関係を重視 方向が間違い距離は正しい